



う ちゅうしょく かん 宇宙食になったサバ缶

こ さかやすゆき べっ しよし こ はやかわ よ し お しょうがくかん
小坂康之・別司芳子作 早川世詩男絵 小学館

「ここですくったサバ缶を、宇宙に飛ばせるんちゃう?」福井県のある県立高校が宇宙食サバ缶を開発するという挑戦は、生徒のこの一言から始まった。

おいしさを追求し、宇宙食の認証基準など高いハードルを乗り越えるため、課題を見つけて試行錯誤しながら、後輩へ研究の成果を引きひいでいく。その夢のバトンを十四年間わたしていった生徒たち。

福井から京都へ続く「鯖街道」を国際宇宙ステーションまでつなげたい高校生の挑戦はいかに。

